

令和元年度本部各施設等事業報告

ルピナス会本部事業報告

新たな元号が「令和」となった初年度の本部事業につきましては、後半において新型コロナウイルス禍の影響を大きく受け、御下賜拝受の報告会ができないなど、あらゆる面で計画の取り止めに余儀なくされておりましたが、他につきましては、年初の計画通り、基本方針に沿った順調な本部運営がなされました。

(総務課、指導課)

1 理事会・評議員会、監査

(1) 新たな元号「令和」となった初年度の理事会は5回、評議員会は3回、ともに順調な開催がなされ、法人運営上の諸問題について審議をいただき、適切な運営のための承認や決定をいただきました。ただし、第5回理事会は、新型コロナ禍の影響を受け、郵送による手段を余儀なくされております。

(2) 監事監査

本部を含め、各施設等に対する監事監査(5/29)を実施、事業運営の細部について監査をいただきました。

(3) 県、町監査(実地指導)

本部、ルピナス園、かみさとデイ、かみさと居宅、ナースングステーションに対する指導監査がおこなわれ、何れも大きな指導事項なく、順調な運営に対して高評価をいただきました。

(4) 内部業務指導

財務課長、指導課長編成での内部指導を実施(9月)、細部に亘る業務運営について点検指導を実施しました。

2 職場作りと職員募集への努力

(1) 研修旅行、ボーリング大会、法人新年会等の企画を通じた融和策に努め、風通しの良い職場作りに努めました。ただし、永年者に対する表彰は、コロナ禍により先送りとなりました。

(2) 積極的な施設見学や実習生の受け入れを通じた採用努力とともに、雇用条件の柔軟化や新たな手法による募集活動について、副施設長らを中心に次の成果へと継続されるような方策の研究に取り組みました。

(財務課、指導課)

1 経営状況の分析と指導を実施しました。

ア 顧問先税理士事務所からの四半期ごとの現況報告の実施及び各施設における半期ごとの経営状況の分析報告をおこないました。

イ 事業活動収支の比較分析をおこない、翌年の予算配分に反映させました。

2 社会福祉充実計画で示されている職員育成事業(事業費141万円)を完全活用し職員の知識、技能の向上に努めました。

3 定款、規則、規程関係(変更及び一部改正)の整備適切に実施しました。

4 新たに採用された職員への指導教養と他の職員への随時教養や面接指導を行いました。

ルピナス園事業報告

1 職員の資質の向上

各種研修会への参加や施設内研修により、知識と技術の向上に努めました。介護福祉士試験に1名合格しました。また喀痰吸引事業者登録をし、研修を継続しております。

2 地域社会との連携

地域に根ざした施設として、引き続き「彩の国あんしんセーフティネット事業」に参画し、町の福祉課題に対応するとともに近隣住民との連携及び協力を図るべく、ルピナス園防災訓練に地域ボランティア組織「地域交流ホーム」を招き相互の交流を図りました。

3 人材の確保及び職場定着

引き続き労働局推奨の「キャリアアップ」制度に参画し、非正規雇用の職員を正規雇用へ転換を図りました。

4 施設整備について

利用者が、心穏やかな生活が送れるよう環境整備や施設設備機器の故障・修繕に対応しました。火災報知設備、災害対応ガスバルクタンクの入替、食器洗浄器の交換と漏水による食堂壁の修理を行いました。またエアコン修理・入替を図りました。

5 災害に対する対応

火災や地震だけでなく、水害に対処するため洪水時避難確保計画を作成しました。また令和2年2月から新型コロナウイルス感染対策として「職員の検温・手洗い消毒の徹底」「面会の禁止」「職員行動記録」「密閉、密集、密接にならない」などの対策を講じ危機感を持って感染防止に努めております。

6 利用者・職員の状況（前年度比）

(1) 平均年齢

86歳（1.5歳増） 最高年齢 102歳（1歳増）

(2) 入所者数等

平均入所者数	77人（1.1人増）
平均入所期間	3年7ヶ月（1ヶ月増）
延入所者数	28,199人（495人増）
稼働率	96.8%（2%増）

(3) 入退所状況

入所 27人（5人減） 退所 26人（6人減）

(4) 平均介護度

3.90（0.04減）

(5) 職員の職種・人数

施設長 1人 副施設長 1人 事務職 2人 相談員 1人
介護職 27人 看護職 4人(1人減) 管理栄養士 1人
機能訓練員 1人 介護支援専門員 1人 用務 2人(1人減)

かみさとデイサービスセンター事業報告

平成29年9月より行っている理学療法士等によるサーキットリハビリや機器等による上下肢運動について、利用者様から、良い評価をいただいております。また、居宅支援事業者様へ、上記リハビリの案内を実施、利用者増加に努めました。認知症予防対策として「歌体操」「知的プリント」「各工作」「各ゲーム」等を継続実施し、利用者様の集中力等の変化を把握するとともに予防対策に役立てました。

流行性のウイルスに対する予防・注意として利用者様とご家族へ予防法のプリント配布。ボランティアによる園内レクレーション実施。又、利用者様ニーズに伴い重度利用者の受入も積極的に行いました。

各季節に合わせたレク（花見・運動会・クリスマス会・誕生会等）の開催。カラオケ機器も利用者様に大変喜ばれております。年2回利用者参加の防災避難訓練を実施しました。

① 利用者状況(対前年比)

	30年度	令和元年度	増減
利用者人数の合計	4,131人	3,371人	△757人
稼働率	67.7%	55.3%	△12.4%
平均利用者数／1日	16.3人	13.3人	△3人

② 男女別利用者数 3,371人 男性 1,512人 女性 1,859人

③ 介護度別利用者数

総合事業 4名、要支援1 3名、要支援2 4名、要介護1 14名
要介護2 4名、要介護3 1名、要介護4 4名、要介護5 2名、計36名

④ 平均年齢 81.6歳 最高利用者年齢 96歳 平均通所利用期間 1.8年

⑤ 通所入退所状況

入所 26人

退所 26人（病院15名、その他5名、利用中止5名、ルピナス園1名）

⑥ 職員職種・人数

職員職種	人数	前年対比
管理者	1名常勤	0人
相談員	1名常勤	0人
機能訓練指導員	1名常勤兼務	0人
看護師(准)	1名常勤兼務	△1人
介護員	2名（常勤1 非常勤1名）	0人

かみさと居宅介護支援事業所事業報告

令和元年度は地域の方々、各施設、各市町村行政へ新規利用者増加の依頼をお願いしました。また、現担当している要介護者等のケアプランをもう一度見直し、個々のニーズに合ったケアプラン作成と地域の方々とのコンセンサスを密に図り、利用者様・ご家族との信頼につながるよう推進しました。

1 ケアプラン作成状況

利用延べ人数は、1,164人（平成30年879人、元年1,164人プラス285人）、登録者数109人（平成30年88人、元年109人プラス21名）で推移しました。

区分	29年度	30年度	元年度	増減
要支援	166	223	260	37
要介護 1.2	315	466	657	191
要介護 3.4.5	107	190	247	57
延べ人数	518	879	1,164	285
登録者数	58	88	109	21

2 登録者数内訳

総合事業 0人

要支援 1 7人 要支援 2 15人

要介護 1 42人 要介護 2 21人 要介護 3 6人 要介護 4 14人

要介護 5 4人

ルピナス神川ホーム事業報告

新型コロナウイルス問題の発展とともに、年度後半計画の大部分を取り止めるなど、利用者の穏やかな生活を保持しつつ社会福祉法人施設としての立場を十分に考慮した諸対策への取り組みを余儀なくされました。主な事業結果については、次の通りです。

- 生活介護、入所支援の充実に努めました。

利用者様の具体的な希望を尊重した個別支援計画の作成を行い、サービスの実現やその評価に努めました。ただし、継続的に実施している外出や買い物等の行事は、諸般の情勢から中止を継続しております。

- 各種委員会活動を中心にリスク管理能力の向上に努めました。

適切な処遇の実践と高レベル化を目途に、課題に特化し解決出来る能力を持った委員会の育成と運営に努めて参りました。特に今日的な課題である「感染症問題」「虐待問題」については、アンケートでの現状分析や研修強化を行いました。

- 災害（火災、地震、水害等）に対する対応力の強化

建物、機械、防災用具などの点検整備を定期的実施するとともに防災計画に

基づく消防官立ち会いによる訓練（年2回、昼間、夜間想定）、緊急連絡網訓練を実施し、有事に備えた安全対策に努めました。また、元年10月には、埼玉県、神川町との連携による「福祉避難所開設訓練」を実施、埼玉新聞紙上にとりあげられるなど高い評価を得ております。

○ 働きがいのある職場づくりと人材の育成に努めました

県社協、県身障協、協力病院主催の虐待、栄養管理、強度行動障害等の各種研修に職員を受講させ、人材の育成を図るとともに、意見を言える風通しの良い職場の気風づくりに心がけました。

○ その他

- ・ 積極的な社会貢献に努めました。

「彩の国あんしんセーフティネット」事業の就労支援について、男性2人を受入れ、うち1人については、パート職員として施設での採用を実現しております。

- ・ 短期入所（空床型）受入れ

行政や在宅利用者様からの緊急依頼にも「措置」などで対応するなど、施設としての存在感を示した地域貢献を実践しました。

○ 利用者状況（令和元年4月1日から令和2年3月31日）

- ・ 総入所数 男性 32人 女性 18人 総利用者数 17,524(昨年比-181)人
- ・ 入退所数 入所数 男性 3人 女性 2人
退所数 男性 3人 女性 2人
- ・ 平均年齢 59歳 最高年齢 83歳 最低年齢 21歳
- ・ 平均障害支援区分 5.5(昨年 5.6)

相談支援事業所ルピナス神川事業報告

利用者の増加(昨年比+13)とともに、内容においても複雑化が避けられず、そのため相談支援事業所ルピナス本庄との連携の下、同一チームとなり地域へ応えることができました。

かみさとナーシングステーション事業報告

1 事業概要

地域の要介護認定者のニーズに沿ったサービスを提供することに重点を置きました。稼働率も対前年度と比較しても、デイサービス事業所へのサービス変更などの理由で低下してしまいました。

2 令和元年度総利用者数

3,221件（347件減）

3 職員体制状況

常勤職員 3名

非常勤職員 1名

4 職員研修

老人保健施設と同様に重点事項として位置づけ、研修会を実地することができました。

ルピナス鴻巣ホーム事業報告

利用者本位のサービス提供と安全かつ安心して生活できることを基本方針に事業を実施しました。

1 質の高いサービスの提供

日帰り旅行、余暇支援のほか、秋祭りなどの各種イベントの充実を図りました。またスヌーズレン備品を購入し利用者に喜んでもらいました。

2 職員資質向上と人材確保

虐待防止研修など 18 の部外研修に 24 名の職員が参加するほか、施設内各種研修も実施し資質の向上を図りました。

令和元年度は、正規職員 2 名・パート職員 1 名を採用しました。

3 施設整備

車両の入れ替え、温冷配膳車の導入、防犯カメラ増設など計画的に施設整備を行いました。

4 災害等に対する対策

年 3 回の防火・避難訓練と停電・断水時の非常災害対策訓練を 3 回実施しました。

また不審者対策として職員に対する「刺す又」使用訓練も実施しました。

5 社会貢献活動への継続実施

彩の国あんしんセーフティーネット事業を継続実施しました。

6 相談支援事業所の充実

4 月 1 日に相談専門員が入職し、体制が確立するとともに、相談支援事業所ルピナス本庄との連携を行いました。

7 実施結果

稼働率 98% (目標 96%)、短期入所 65.04% (目標 53% 3 月は新型コロナウイルス対策で入所者制限)、相談支援事業 41 名 (目標 50 名)

8 その他

(1) 利用者

平均年齢 47 歳 (23 歳～73 歳) 平均障害支援区分～5.2

区分別入所者数「3」～2 名、「4」～4 名、「5」～21 名、「6」～23 名

(2) 職員数 42 名 (目標 42 名)

施設長 1、副施設長 1、事務員 2、相談支援専門員 1 (+1)、生活係 3、管理栄養士 1、看護職員 2、サービス管理責任者 1、生活支援員 30 (+2)

(3) 新型コロナウイルス対策

令和 2 年 2 月から「利用者への面会禁止」「利用者の外出自粛」「1 階・2 階通路封鎖」「職員の検温・手指消毒の徹底」「短期利用者受け入れ中止」「対策検討会の開催」など「もちこまない・うつさない・かからない」を基本原則とした各種施策を実施しました。

相談支援事業所ルピナス本庄事業報告

平成30年8月1日に開設した相談支援事業所ルピナス本庄は、1年8ヶ月の運営期間が経過しました。「チームでの相談支援」をモットーに掲げ、複数の相談支援専門員が幅広い視点でサポートすることにより、利用者1人ひとりが「生きがいのある生活」を実感できるサービス等利用計画案等の作成を心がけました。また、相談支援専門員がお互いに相談できる体制となっているため、対応に苦慮するような事例でも、1人で抱え込むことなく、協力して対応できました。令和元年度（平成31年度）の主な事業内容は次のとおりでありました。

1 チームでの相談支援体制への挑戦、そして継続

多種・多様な相談支援専門員を配置し、利用者、各事業者、市町村等からのどんな困難な相談にもチームで協力して向き合い、解決に努めました。専任の相談支援専門員3名を配置し、本庄児玉圏域では唯一の特定事業所加算を算定できる体制を1年通じて継続できました。（特定事業所加算Ⅲ）また、毎週の定例会議を開催し、利用者状況の共有に努めるとともに、支援の検討や検証を行いました。

2 質の高い相談体制及び利用計画等の作成

利用者の自己決定支援、意思決定支援に重きを置き、施設内研修及び外部研修に参加しました。また、権利擁護や個人情報保護を徹底するため、相談支援体制の点検を定期的実施しました。さらに、行動障害者支援体制加算、精神障害者支援体制加算を算定できる体制を維持するとともに、新たに要医療支援児者支援体制加算を算定できる体制を整備しました。

3 地域との信頼関係形成

「電話に出る」「可能な限り足を運ぶ」を心がけ、いつでも繋がる相談支援事業所、顔が見える相談支援事業所となるよう、地域からの信頼獲得に努めました。また、携帯電話への転送機能を用いて24時間の相談体制を継続しております。

4 効率化を念頭に置いた事業運営

相談支援事業の報酬は決して高いとは言えず、残念ながら、単体では事業の維持・継続ができないレベルであります。そのため一義的な目的ではないが、可能な限り効率的な事業運営を心がけました。その中の一環として、事業の実施地域を本庄児玉圏域内に絞ることを見据え、より一層、地域密着の事業運営を心がけました。

5 契約利用者数

令和2年3月 160名（令和元年度中に17名、ルピナス鴻巣へ契約変更）

かみさとナーシングホーム事業報告

令和元年度もリハビリ強化により在宅復帰・在宅生活支援を行い、在宅復帰率34.3%(3月末現在)を達成し、在宅強化型を維持することができました。又、医療機関、居宅支援事業所からの相談にも迅速に対応し、各サービス別(入所・ショート・通所リハ・訪問リハ)の稼働率も前年度以上に上昇させることができました。この事は、地域からのリハビリに対する信頼もさらに厚くなってきているものと考えられます。

1 地域連携

介護教室を3回実施(7月・10月・2月)

地域ケア会議の参加を行いました。

行事へ各団体からの慰問、文化祭開催、小学校の訪問・保育園の鼓笛発表

2 職員研修(元年度最重点事項)

職員研修(身体拘束廃止2回、事故防止2回、感染症2回、認知症、AED、マナー研修3回)の実施と個別の研修の参加支援を行いました。

3 利用者支援

入所・通所・訪問リハビリについて担当ケアマネやサービス担当者が個別計画書を作成しました。また入所前後や退所前に居宅を訪問しケアマネと連携を図り在宅復帰支援を行いました。結果、在宅復帰率も30~40%、ベッド回転率10%維持し、デイケア利用者からの入所と入所からデイケアの利用に繋げる事ができました。

4 災害対策

年2回の消火訓練及び避難訓練を実施しました。(1回消防署立ち合い)

5 利用者状況

	入所・ショート	通所リハビリ	訪問リハビリ	訪問介護
総利用者数(人)	26,863	6,152	1,298	3,221
稼働率(%)	91.7	99		
平均年齢(歳)	85.8	79.6	75.9	81.9
平均介護度	3	1.9	1.6	2.2
入所平均日数	368日			
地域別利用率(%)	入所・ショート	通所リハビリ	訪問リハビリ	訪問介護
上里	32.5	81.1	55.5	56.9
本庄	34.0	11	44	22.3
神川	6.0	1.8	0	4.7
その他	27.5	6.1	0.5	16.1

6 居宅支援事業所

地域包括ケア推進・実践の為、本人・家族との相談支援を行い、ケアプランの作成や行政、医療機関、サービス事業所、地域と連絡調整や協力を行いました。

令和2年3月31日現在 担当者数 172件(担当延べ総件数 1998件)